

◎ 全学年 | 「漢字や言葉の学習」

聞く力、書く力を育む「漢字の聞き取り」

○ 漢字は、文脈の中でこそ生きてくる

漢字の学習をどのようにに行っているのでしょうか？DSソフトを使って学習し、漢字検定にチャレンジするといった子どもたちも増えています。しかし、子どもたちの意識が、「漢字の学習」=「知識の習得」となってしまっは大変です。

そこで今回は、文脈に即して漢字を使う意識を高め、日常的に漢字を用いる習慣を身に付けさせるとともに、聞く力や書く力も育むことができる、古くて新しい「聞き取り」という学習方法を紹介します。

○ 「漢字で表せる言葉」に対する意識を高める

「聞き取り」の方法は、いたって簡単なものです。

- ① 漢字配当一覧表から、その日、子どもたちが受けた授業などで用いられた漢字を拾い出し、その漢字をひとつ以上含む「文」を考えておきます。
- ② 子どもたちに「聞き取りノート」を用意させ、できるだけ漢字を使うよう指示してから、1回目はゆっくり、2回目は少し言葉を区切って間をとりながら、用意した「文」を読み上げます。
- ③ 頃合いを見計らって、「では、確かめてみよう」と声をかけ、3回目は普通の速さで読み上げます。
- ④ 翌朝、朝の会が始まるまでに、日直さんなど、2～3人の子どもに板書しておいてもらいます。
- ⑤ 朝の会で、自分が書いた文と見比べさせながら、全員で、その文の中の漢字の確かめを行います。
- ⑥ 区切りのよいところで確認の聞き取りテストを行ったり、全文ひらがなで記したプリントでまとめテストを行ったりしてもよいでしょう。未習の漢字を書いてきたら、それをほめて加点してあげます。そうすることで、漢字で表せる言葉に対する意識が、飛躍的に高まっていきます。

○ 朝と帰りの5分間を有効に活用

国語の力の中でも、聞く力や書く力を育むことは難しく、内容を工夫する以上に、時間を確保するのが大変です。翌日の持ち物や宿題などを板書し、連絡帳に書かせる先生は多いと思いますが、その時間を有効利用して、次のような文を聞き取らせたり、視写させたりします。

- ・明日の書写では、小筆で名前を書く予定です。
- ・今月の生活目標は、「ろう下を静かに歩こう」です。
- ・カタカナの「シ」と「ツ」は、よく似ています。

こうすれば、子どもたちに意識させたい内容を盛り込むこともできますし、漢字だけではなく、ひらがなの学習やカタカナの学習、句読点やカギかっこのつけ方といった、言語事項の学習も可能です。

最初は、「先生が黒板に書くスピードに合わせて、一緒に書き終われるようにしよう」と視写をさせ、文字を書くスピードの向上を図りましょう。

○ 大切なことを「意識して聞く」という生活習慣

多くの知識を覚えなければならない中学年では、社会・理科などの学習内容を採り入れ、高学年では、社会的な話題などにも意識を向けさせたいものです。

- ・東北地方には、青森、秋田、岩手、山形、宮城、福島の6つの県があります。
- ・冬になると、北西からの冷たい季節風が吹きます。
- ・「一期一会」という言葉は、茶道の心構えから生まれた四字熟語です。
- ・ヘレン・ケラーは、三重苦を乗り越え、人々に勇気と希望を与えてくれました。
- ・〇〇事件の被告は、高等裁判所の判決を不服として、最高裁判所に上告しました。
子ども同士で採点させれば、効果は倍増します！